

「フランスの精神分析」(『精神分析・精神病理の臨床研究』第五期)

一九九〇年以降に、ビオン、ウィニコットに影響を受けた分析家たちが、特定の学派からは独立した形でオリジナルな理論を提起するようになる。その代表格として挙げられるのが、アメリカのオグデン、ボラス、イタリアのフェッロ、チヴィタレーゼである。彼らの理論に明確な共通点はないが、そこには「家族的類似性」とも呼べる近縁性がある。この動向を「現代精神分析」(la psychanalyse contemporaine) と名づけたのは、アンドレ・グリーンである。この流れはフランスにおいては、ラカンの影響を受けた分析家加わり独自の発展を遂げる。その中心には、グリーンをはじめ、ルシオン、アーク、スカルフオンなどがいる。彼らの仕事は、非表象領域への着目という点において類似性を持つ。

今年度のセミナーでは、グリーンをはじめとする、「現代精神分析」の理論家の焦点を当て、今後の精神分析の臨床、理論の展開の可能性を考えることにする。ビオン、ウィニコット、ラカンの理論を対話させることは容易ではない。「現代精神分析」の分析家たちは、先行理論を折衷するのではなく、臨床から生まれた問いを起点として思考を展開している。彼らのテキストを参照しつつ、参加者各自が自らの臨床に根ざした問いを立ち上げることが本セミナーの目的である。

日程：2026 年 5 月～2027 年 3 月 (6 月、11 月は休み) 全 9 回

第二日曜日 (原則)、午後 1 時 30 分から 4 時まで

5 月 10 日、7 月 12 日、8 月 9 日、9 月 13 日、10 月 11 日、12 月 13 日、

2027 年 1 月 10 日、2 月 14 日、3 月 14 日

ファシリテーター：十川幸司

形式：担当者が指定された論文のレジюмеを発表し、全員で討論する。

テキスト：その都度、文献を指定し、配布する。

(フランス語が全く読めなくても参加できるように、英訳、邦訳のある文献を取り上げます。ご気楽にご応募下さい)。

参考文献：英語で読めるものとしては、Reading French Psychoanalysis (Routledge,2010) が全体像を理解するのに役立ちます。

定員：10 名

資格：臨床に携わり、毎回指定された文献を精読したうえ、参加できる人。

場所：小寺財団第二セミナールーム

参加費：35,000 円 (参加者が決定次第、振り込み情報をお伝えします。)

申し込み期間：3 月 10 日(火)～4 月 26 日(日)

申し込み：下記 URL または右 QR コードよりお申し込みください。

<https://forms.gle/dnfBmqEqRkxfXHXq8>



問い合わせ：小寺財団事務局

kodera.fps@gmail.com